

# 參考資料集

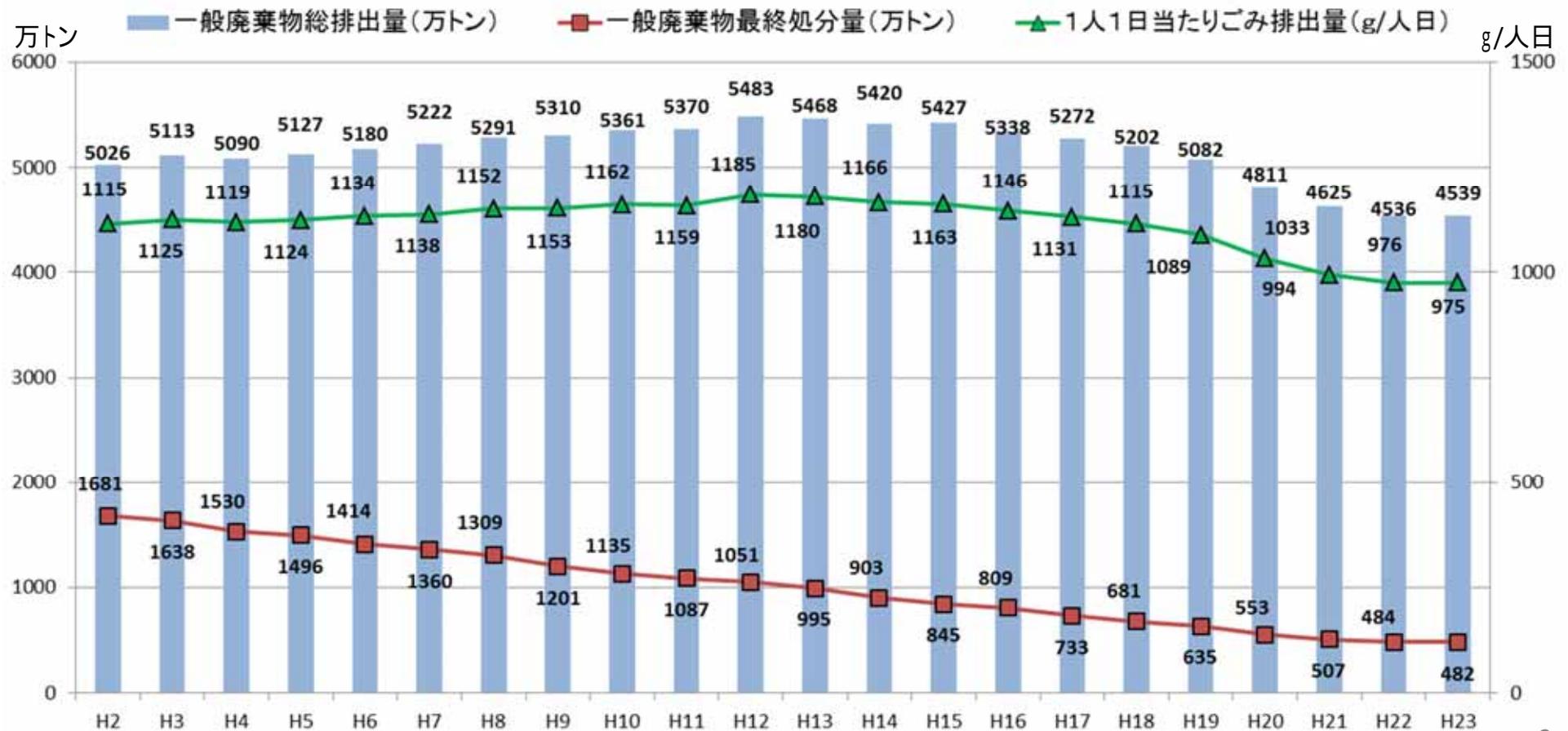
## 容器包装リサイクル法の評価

### 一般廃棄物総排出量・一般廃棄物最終処分量・1人1日当たりごみ排出量

我が国のごみの排出量は、平成12年度をピークに減少しており、平成23年度においては、4,539万トンとなっている。

このうち、容器包装廃棄物が占める割合は容積比で約54%、湿重量比で約24%となっており、約60%を占めると言われていた容積比は減少している。

1人1日当たりごみ排出量は、直近は975gと、法制定時（平成7年。1138g）から14%、ピーク時（平成12年。1,185g）から約18%、減少している。



出典：環境省「日本の廃棄物処理」

# 一般廃棄物最終処分場の状況

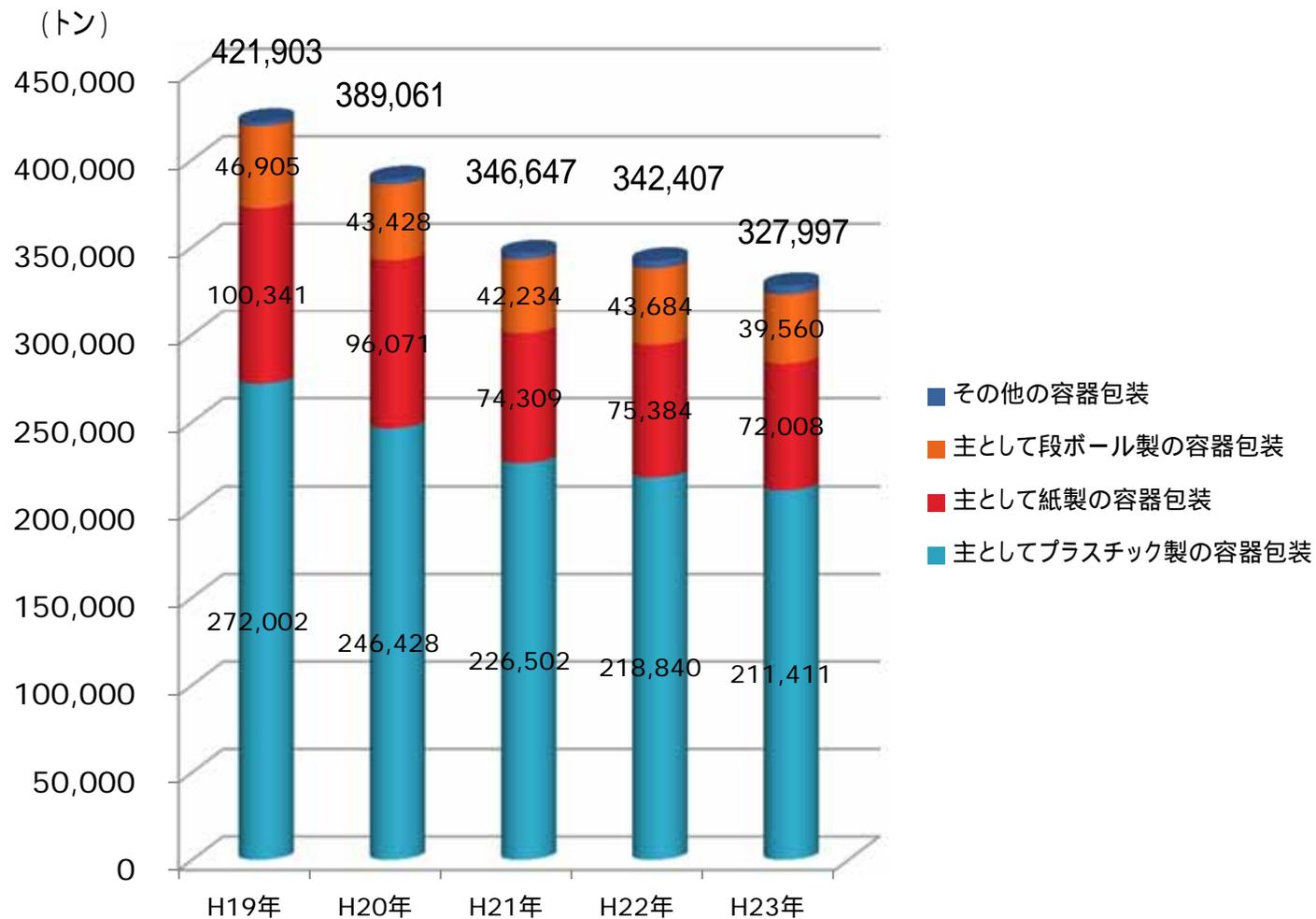


出典:環境省「日本の廃棄物処理」

## 1.2 R (リデュース、リユース)

# 小売業事業者に係る容器包装排出抑制促進措置

➤ 定期報告提出事業者の、過去5年間の容器包装使用量の推移について分析したところ、平成23年度実績の容器包装の使用総重量は327,997トンであり、平成19年度実績と比較して約9.4万トン(約22%)減少。



## 1.2 R (リデュース、リユース)

# リデュースに関する事業者の自主的取組

### 3 R推進団体連絡会によるリデュース(軽量化・薄肉化等による使用量削減)の取組

素材	2015年度目標 (2004年度比)( 1)	2012年度 実績	2006年度から の累計削減量	備考
ガラスびん	1本当たりの平均重量で 2.8%の軽量化	2.1%	143千トン	
ペットボトル	指定ペットボトル全体で15% の軽量化効果	13.0%	331千トン	2015年度目標を 10%から上方修正
紙製容器包装	総量で11%の削減	9.9%	711千トン	2015年度目標を8% から上方修正
プラスチック製 容器包装	削減率で13%	11.5%	58千トン	
スチール缶	1缶当たりの平均重量で5% の軽量化	4.9%	115千トン	2015年度目標を4% から上方修正
アルミ缶	1缶当たりの平均重量で3% の軽量化	3.8%	53千トン	
飲料用紙容器 ( 2)	牛乳用500ml紙パックで3% の軽量化	1.0%	165トン	
段ボール	1m <sup>2</sup> 当たりの平均重量で5% の軽量化	3.6%	985千トン	2015年度目標を 1.5%から上方修正

( 1 ) 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

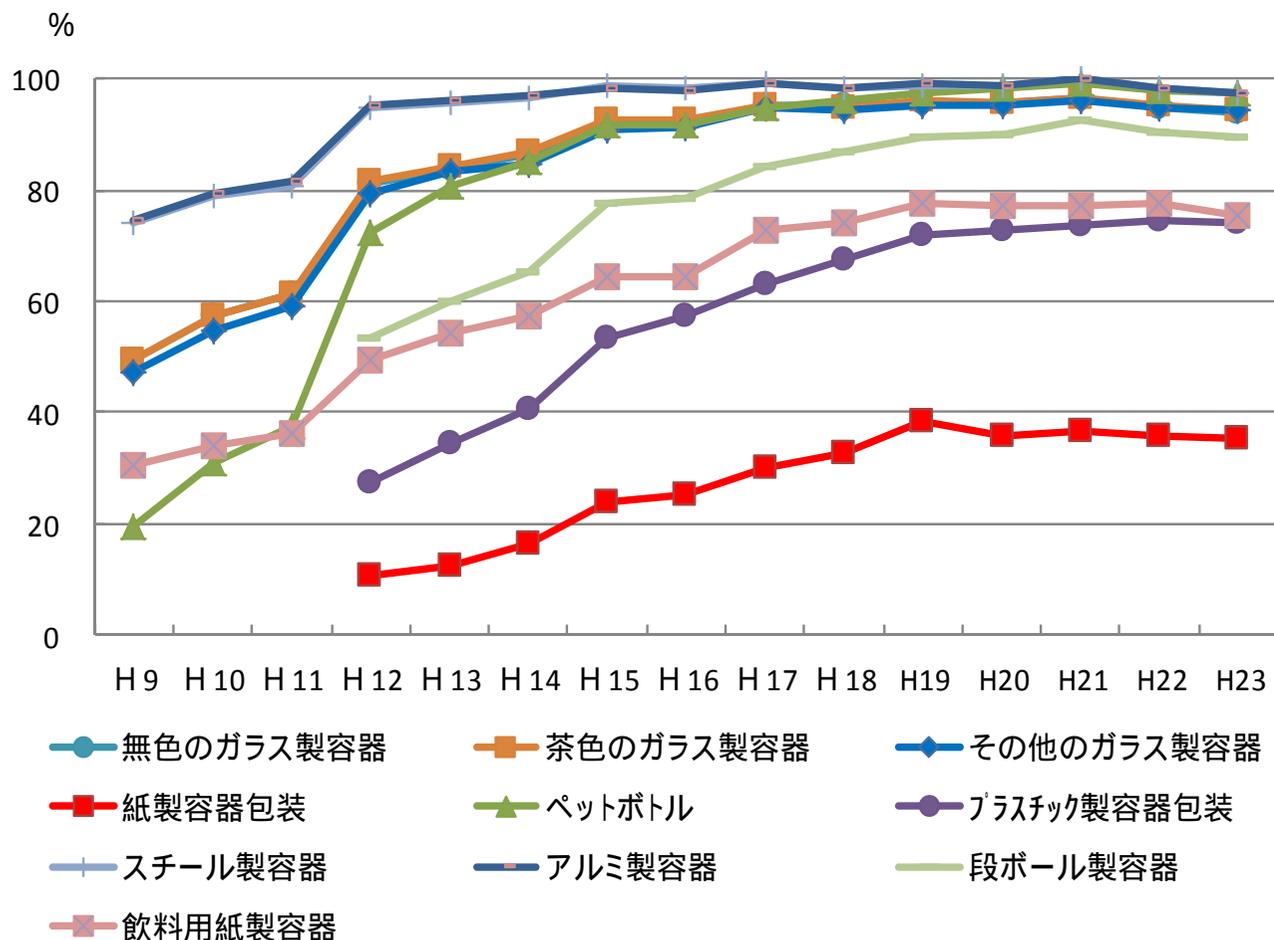
( 2 ) 2005年度比。紙パック原紙の仕様レベルで比較。

(出所) 3 R推進団体連絡会 第二次自主行動計画  
2013年フォローアップ報告(2012年度実績)

## 2. 分別収集・選別保管

### 全市町村に対する分別収集実施市町村の割合の推移

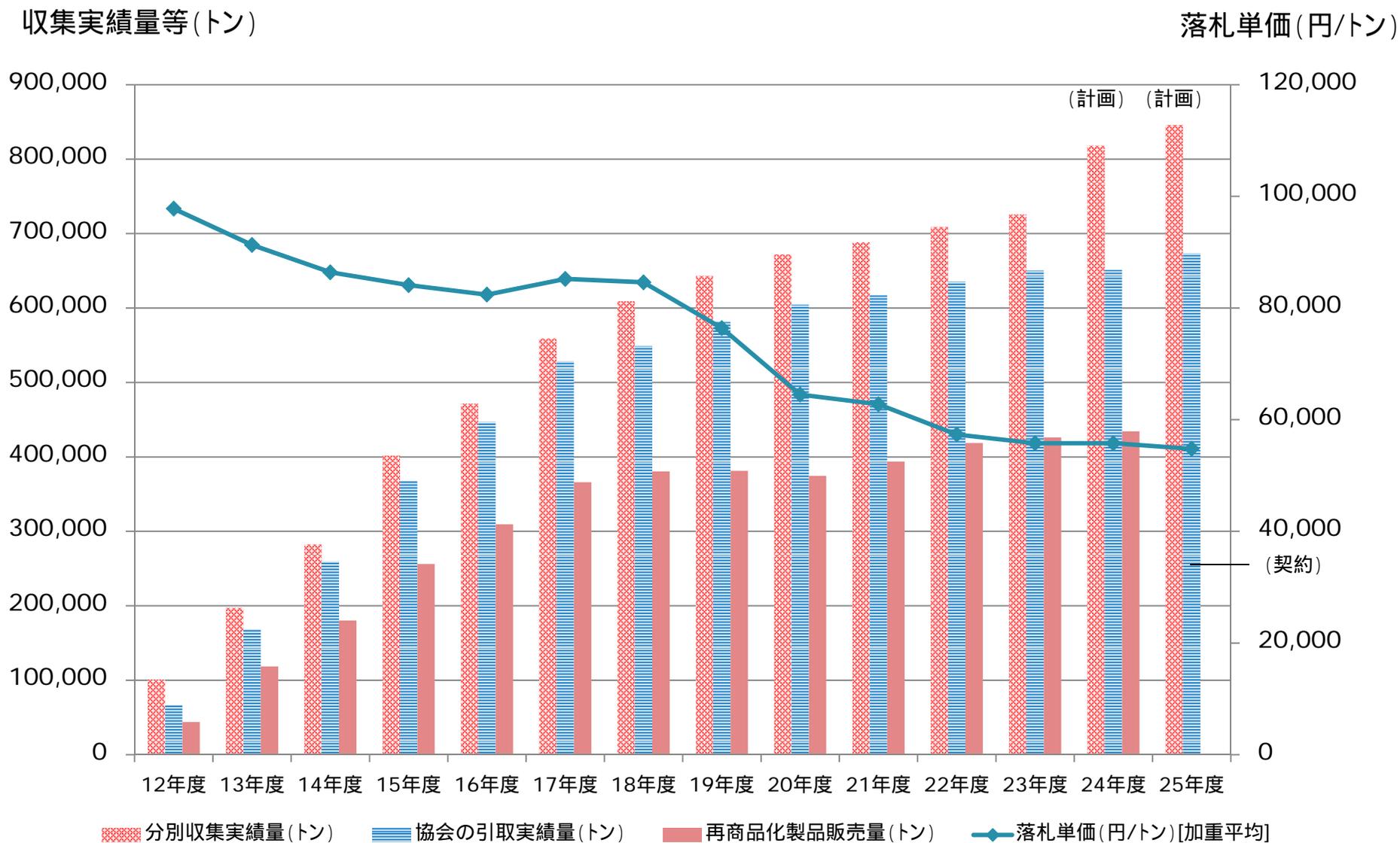
分別収集実施市町村の割合はガラス製容器、ペットボトル、スチール缶、アルミ缶については9割を超えているが、紙製容器包装は低い割合であり、プラスチック製容器包装は近年横ばいである。分別収集量は全体量は増加しており、特に、ペットボトルの分別収集量が増加している。



品目	H23年度 実施割合 (%)
無色のガラス製容器	94.1
茶色のガラス製容器	94.3
その他のガラス製容器	94.5
紙製容器包装	35.2
ペットボトル	97.2
プラスチック製容器包装	74.2
(うち白色トレイ)	29.1
スチール製容器	97.5
アルミ製容器	97.5
段ボール製容器	89.6
飲料用紙製容器	75.4

## 2. 分別収集・選別保管

### プラスチック製容器包装の分別収集量、指定法人ルート量・単価の推移

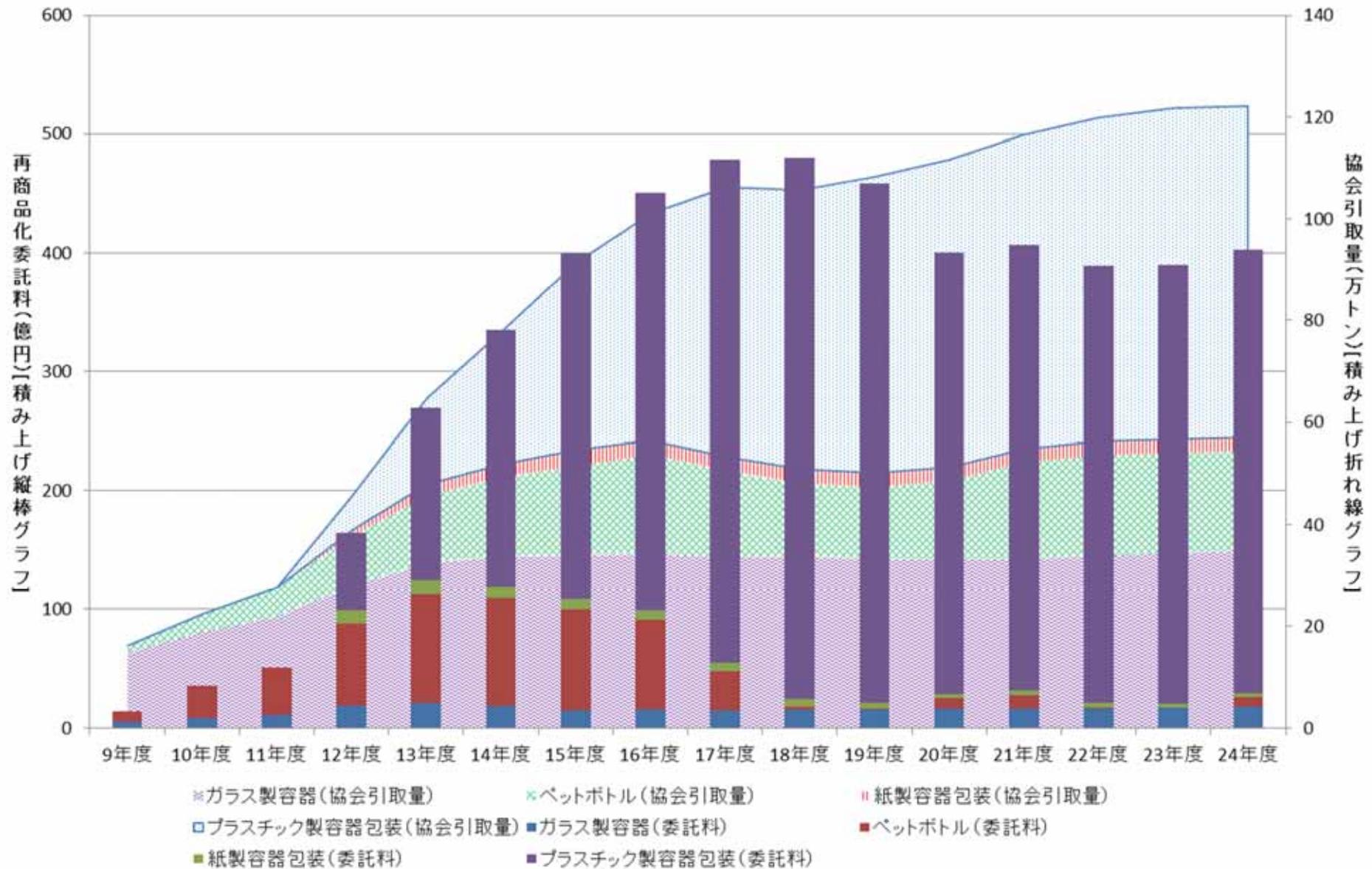


24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。

出典：(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

## 2. 分別収集・選別保管

### 特定事業者が負担する委託額の推移



出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会

## 2. 分別収集・選別保管

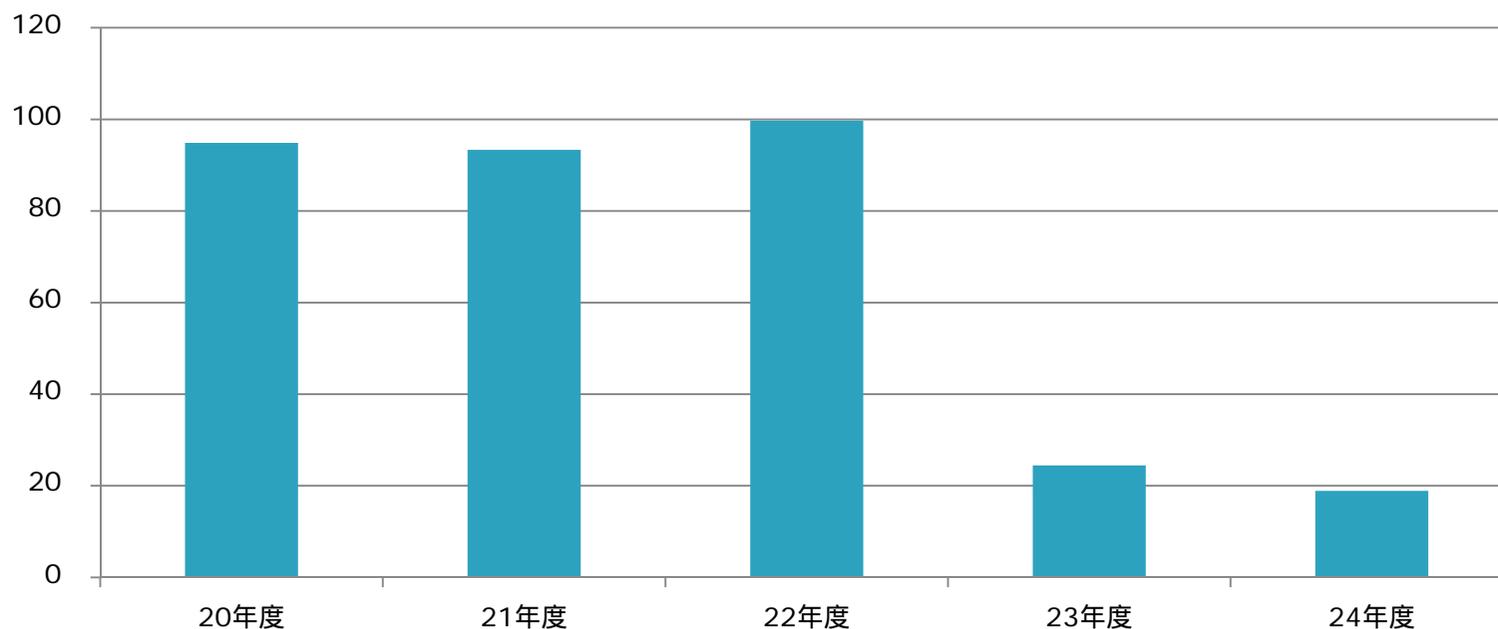
# リサイクルの合理化に貢献した市町村への資金拠出制度の状況

市町村が分別収集を徹底したり、事業者が薄肉化等の排出抑制に努めることにより、再商品化過程に引き渡される容器包装廃棄物の質が向上し、量も抑制され、その結果実際の再商品化費用総額が、当初想定していた再商品化費用総額よりも下回ることとなる。市町村合理化拠出金は、この差額のうち、当該市町村の寄与分（差額の2分の1）を市町村に拠出するもので、前回法改正において制度化された。

資金拠出制度導入後、ベール品質も高品質化が進んだ。

(億円)

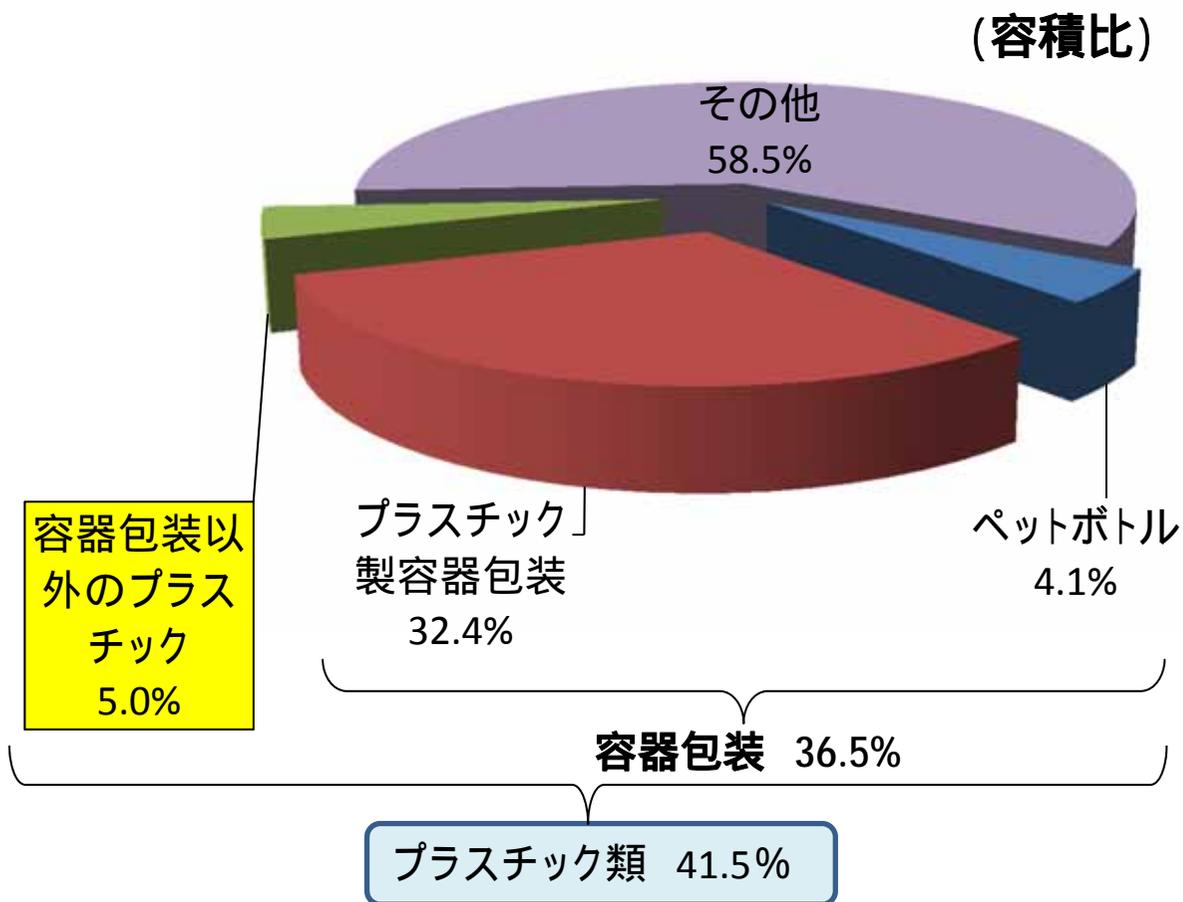
### 拠出金総額



## 2. 分別収集・選別保管

# 一般廃棄物中の容器包装以外のプラスチックの割合

平成24年度に7都市の容器包装廃棄物の使用・排出実態を調査したところ、一般廃棄物全体に占めるプラスチックの割合は容積比で約41.5%であり、容器包装プラスチック36.5%、容器包装以外のプラスチックが5.0%であった(7都市平均組成)。



:この7都市とは、東北1(人口:20万人台)、関東3(人口:5~10万人、40万人台、50万人台)、中部1(人口:5~10万人)、関西1(人口:20万人台)、九州1(人口:20万人台)。

(出所)平成24年度容器包装廃棄物の使用・排出実態調査報告書(平成25年3月 環境省)